

令和6年8月22日

浜田市議会議長 様

議員名 佐々木 豊治

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

- ・岡山県久米郡久米南町
- ・岡山県総社市

2. 視察事項

- 岡山県久米南市
 - ・AI活用の乗り合いタクシー、高齢者の移動手段確保
- 岡山県総社市
 - ・ひきこもり支援事業について

3. 視察の目的（市政との関連など）

久米南町のAI活用の乗り合いタクシーについては、浜田市が今年4月に策定した「公共交通計画」について、AI活用の先進技術を活用した公共交通サービス導入に向け先進事例等を調査・研究するとある。今回の視察で事例を学び検討に向け提案していきたい。

総社市のひきこもり支援事業については、総社市は早くから全国屈指の福祉文化先進都市を目指され、ひきこもり支援についても平成27年ごろから取組まれ、多くの取組が推進されている。浜田市でのひきこもりが増加傾向にあるなか、総社市の取組を学び、支援策について提案など行っていきたい。

4. 期間（移動日を含む）

令和6年8月20日（火）～ 令和6年8月21日（水）

5. 経費 21,628 円

（経費内訳 宿泊代 6,600円、旅費 12,662円 資料代 2,420円）



6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

AI を活用することにより、大幅な経費の削減や住民利用が倍増し、予約なしの電話連絡ですぐ利用でき、また乗り合い率も上昇しているなど、効率の良い公共交通事業が推進されていた。

高齢乗車券に替わる高齢者の移動手段として、浜田市での取組を提案していきたい。

ひきこもり支援については、福祉政策の先進市、総社市の支援策を学び、前回の藤里町の事例と共通するものが複数あり、有効な支援策を改めて認識できた。

実態把握の難しさもあるなかで、国の補助も受けられるようになってきているので、浜田市での支援策を提案し進めていきたい。

7. 視察内容

(詳細は別紙のとおり)



岡山県久米郡久米南町

◆視察先の概要

久米南町は岡山県の中央部やや東寄りに、浄土宗開祖法然の生誕の地で知られ、また、川柳で町おこしを行っている。

平地が少なく大半が山林と高原地帯で、昭和29年に1町3村で合併し久米南町に。

人口は4,100人、高齢化率45%、面積は78km²となっている。

◆視察の内容

AIを活用したデマンド交通「かっぴーのりあい号」について

- ・のりあい号運行前は民間路線バス、タクシー事業者もなく、1時間に1本のJRとコミュニティバスのみ。
- ・コミュニティバスを町内全域に左右まわりで走らせるが、便ごとに経路が変わっていたり、乗車が長時間、バス停も高低差があり歩けないなども問題で、バスをやめ、デマンド交通「かっぴーのりあい号（事前予約性・定時運行）」の運行を始めた。
- ・町内を5つのゾーンに分け、往復12便を走らせたが予約制のため利用しづらい、利用が特定の便に集中し非効率、ゾーン外への予約方法がわかりにくいなどの問題が。
- ・解消する方法として、AIの配車システムがあることがわかり、検討を始めたが、ネックになったのが導入の経費だったが、「トヨタモビリティ基金」に応募し採択され導入に。
- ・AIシステム「未来シェア SAVSI」を活用し2020年1月より実施。
- ・特徴としては
 - ①時刻の決まりが無くて、いつでもどこでも行けるように。
 - ②乗車の直前まで予約が可能に。
 - ③ネットで予約ができるように。
- ・当初はタクシー車両6台で運行していたが、5台に削減し土日祝日の運行や運行時間も拡大した。
- ・2019年開始当初は利用者が8700人だったがAI導入後2022年は1万8700人となった。
- ・利便性向上と運行効率化による効果として、1利用当たりの経費が大幅に改善されたり、利用者増に伴い乗り合い率も上昇。
- ・住民の反応としては
 - ①行きたい買い物先まで、1人で行けるようになった。(66%)
 - ②外出頻度が増えた。(40%)
 - ③その他の目的利用が4,5倍に増加し、余暇活動の利用が増加した。

- ・運賃は距離に関わらず1回300円、町外の人でも利用することができる。免許を返納した65歳以上に交付される「おかやま愛カード」を持つ人は半額の150円で利用できる。
- ・タクシー事業者への委託料(補助金)は約4000万円。システム利用料が200万円。
- ・以前から行っている半額助成の「タクシー券」はかなり絞られた。予約の方法は「すぐに来てほしい」「来れる時間で」「目的地に着きたい時間」の3パターンある。
- ・タクシー事業者への差額料金の補填額は800万円。

◆所感

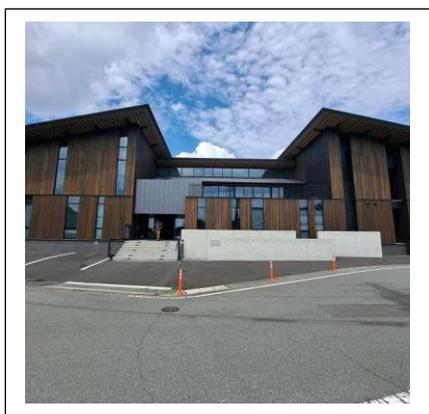
町の公共交通事業費としてタクシー事業者への補助金4,000万円とシステム利用料200万円とのことで、民間バス会社がないことで有効活用されていると感じた。

コンサルを入れて3年間でこの事業を作ったとのことだった。

タクシー車両4台は町が購入したが県が半額の補助の制度もある。

安価な運賃と個人で電話で利用したいときに利用できる使いやすさはAIの大きな効果と思う。

タクシー券に替わる費用の活用として今後の当市での取組の可能性を提案していきたい。



昨年建替えられた新庁舎



議場にて

岡山県総社市

◆視察先の概要

岡山県南西部に位置し岡山市、倉敷市と隣接し、瀬戸内海特有の温暖少雨の地域。

まちの住みごごちランキングは県内15市で1位。

弱者支援を推進し、全国屈指の福祉文化先駆都市を目指し、「福祉国家プログラム」を策定している。

人口は69000人、面積は211km²、人口は微増傾向。

◆視察の内容

- ・ひきこもり支援は平成29年度から始め、プログラムのメニューに「ひきこもり支援部会」をつくり、「ひきこもりから社会参加200人」を達成するとしている。
- ・平成27年「ひきこもり支援等検討委員会」を設置し、28年に実態把握を行い207人のひきこもりがいることを把握した。
- ・29年、市はひきこもりに特化した相談窓口「ワンタッチ」を社会福祉協議会に委託し設立。社会福祉士の資格を持った専門相談員2名が対応している。
- ・これまでの相談数は実質相談者は474人、延べ相談件数は28,333件で、そのうち社会参加人数は88人となっている。
- ・30年には当事者が自由に訪れることができる常設居場所として、空き家を活用した「ほっとタッチ」を開設。平日の15時から17時までの2時間、相談員やひきこもりサポーター(無償ボランティア)が対応し、毎日、平均4名が利用している。(サポーターは現在97人が登録し、養成講座も開催している)また、ひきこもり家族会の「ほっとタッチの会」を設立。
- ・R3年には常設居場所「ほっとタッチぽえむ」も開設した。
当初、基礎自治体が支援を行う経費はすべて市の単独だったが R1年度からは国の補助もはじまった。
- ・R1年8月にはひきこもり支援に積極的に取り組む5市長を集めたサミットを開催し、全国から700名が参加。基礎自治体がひきこもり支援を行う意義・必要性を全国に発信した。
- ・委託料は人件費や居場所の運営費などで1,600万円で半分は国の補助金。
- ・「ひきこもりは当事者やその家族が悪いのではなく、ひき込まざるを得なくした社会が悪いのである。であるから行政(首長)が全力で支援して行くべきである」との市長の熱い想いの元、取り組んでいる。

◆所感

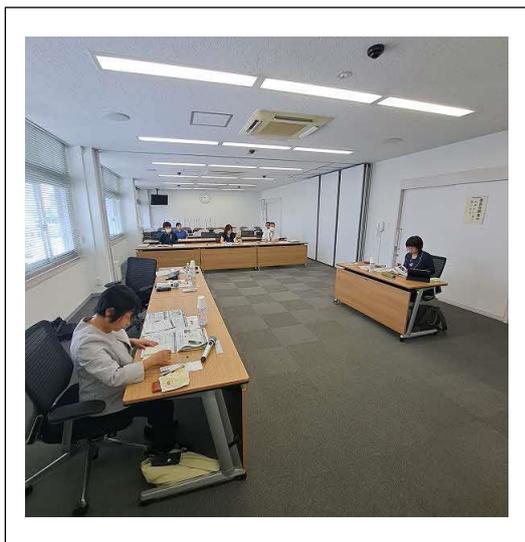
人口の2%がひきこもりの実態ではないかとの国の情報から、今後、総社市でも改めて実態調査に取り組んでいくとのことで、先進市でも実態把握には困難があるように感じた。

2ヵ所の居場所設置や、保護者の会の設置の取組効果はとても大きいと感じたが、効果が大きいとされる訪問相談の取組も今後進めていきたいとのことだった。

サミットを開催したり、サポーター導入や養成講座の開催など、市民へのひきこもり支援に対する意識付けが強くなされていると思う。

ひきこもり支援については、基礎自治体の取り組みを早急に進めていく必要性を改めて大きくする視察だった。

浜田市でも事業委託はしているが、体制整備から実態把握、支援内容など、今後様々な提案をしていきたい。



ほっとタッチの前で



弱者救済の多数の支援センター
(看板は市長の手書き)